2024.3.1

岡山県立 博物館だより 85

- 地域に活きる魅力ある博物館を目指して　p.2
- 特別展を終えて　p.3-4
- テーマ展を終えて　p.5
- 教育普及事業　p.6-7
- 博物館 NEWS　p.8
- INFORMATION　p.8

上：特別展「慈悲のほとけ―観音と古寺の名宝―」より
重要文化財　聖観音菩薩立像（部分）　岡山市 法界院蔵
（画像提供：就実大学 吉備地方文化研究所）

右：特別展「醸す―自然と技術が育んだ岡山のお酒―」より
一斗樽　岡山県酒造組合蔵

地域に活きる魅力ある博物館を目指して

博物館は、多くの方々に貴重な実物資料を観覧いただくことで、教育・学術・文化の発展に寄与することを大きな目的としていますが、社会の変化に合わせて、まちづくりや国際交流、観光、産業のほか様々な分野と連携したり、地域の活力向上に関わるなど、これからの時代において博物館が更なる役割を果たしていくよう、先般約70年ぶりに博物館法が改正されています。

そのような中で、昭和46年（1971年）に開館して約50年が経過した当館は、令和2年4月から3年間にわたって耐震補強や大規模改修のために閉館し、令和5年4月にリニューアル・オープンしたところです。新たなスタートとなる令和5年度は、今後の目指すべき方向や計画を定めた「第3次中期目標」に基づいて取組を展開しました。

“繋げよう岡山の歴史”として、文化財の調査や収集、寄託資料の受入を継続的に行い、適切に保存・管理することで次世代へ確実に引き継ぐこと、“伝えよう岡山の文化”として、展覧会の開催をはじめ、講演会や出前授業、ジュニア学芸員講座等を通して、幅広い年齢層に郷土岡山への愛着や誇りを醸成すること、“届けよう岡山の魅力”として、地域の文化施設や多様な主体と連携して当館の魅力やサービスの向上を図ったり、各種の媒体を通して広く情報を届けること。このように3つの柱を掲げて一体的に推進してきました。併せて、当館の認知度をもっと高めるために、報道機関への積極的な働きかけやSNSを活用したタイムリーな情報発信、会議や訪問先でのチラシの配布等、職員一人一人が広報担当者となって地道に活動しました。

これまでの来館者数は、約30,000人（令和6年1月末現在）となっていますが、更に多く御来館いただくためには、令和5年度の成果や課題の検証はもとより、ニーズの把握や他施設での先進事例に学ぶことなどにより、工夫・改善に繋げていく必要があります。また、学校との連携を一層強化し、教育活動の場としての利用を拡大することも重要です。今後もこうしたことを着実に積み重ねながら、社会の変化に柔軟に対応し、岡山の歴史と文化の玄関口として、そして地域に活きる魅力ある博物館として、皆様の御期待に応えられるよう取組の充実に努めてまいりたいと考えています。

（館長　細川　誠）

岡山県立博物館　外観

2階展示室

特別展を終えて

慈悲のほとけ―観音と古寺の名宝―

会期：令和5年7月28日（金）～9月3日（日）

観音菩薩（観世音菩薩）は、様々な姿に変身して人々をあらゆる困難から救うとされ、親しみやすい慈悲のほとけとして古くから信仰されてきました。

この度の展覧会では、中国地方5県の観音菩薩を祀る寺院で構成される、中国観音霊場会の御協力を得て、中国地方の観音菩薩や諸寺院に伝わる寺宝を御紹介いたしました。

まず、「第1章　観音」では、白鳳時代の観音菩薩立像、そして、平安時代以降に信仰が盛んとなった六観音を順に御紹介しました。六観音とは聖観音、千手観音、如意輪観音、十一面観音、馬頭観音、不空羂索観音、准胝観音（天台宗では不空羂索観音、真言宗では准胝観音を取り入れる）のことです。六観音は、現世での救いだけでなく、六道輪廻の苦しみから人々を救い、浄土へと導く存在として信仰されてきました。また、岡山市西大寺に伝わる縁起絵巻のうち、最も古い「金陵山古本縁起」2巻（県重文）を、巻頭から巻末まで前後期にわけて公開しました。改修工事により閲覧しやすくなった壁面ケースで、しっかりと絵巻を観覧される方も多かったように思います。

続いて、三十三観音のうち楊柳観音や白衣観音を紹介し、また観音菩薩の阿弥陀如来の脇侍としての側面も、當麻曼荼羅や来迎図などを通じて御紹介しました。

そして、展示会場の中心では、通常33年に一度のみ開扉される、岡山市法界院の秘仏「聖観音菩薩立像」（重文）を御紹介しました。平安時代中期まで遡る一木造りの像で、量感のある体部や衣文の表現など古様な部分も多いお像です。次にお目にかかれるのは33年後とあり、多くの方が見入られていました。

「第2章　霊場に伝わる名宝」では、中国観音霊場会に伝わる絵画・彫刻・工芸品・典籍・古文書などを御紹介しました。霊場会は歴史ある古刹や当地の中心寺院であった寺が多く、多種多様の優れた宝物が伝わっています。

会期中には、石川知彦氏（龍谷ミュージアム副館長）による記念講演「中国観音霊場と西国観音霊場」を8月5日（土）に開催しました。また、ワークショップは8月6日（日）に森脇亮介氏（京仏具三香堂代表取締役）による「香りを楽しむ―匂ひ袋作り―」を開催したほか、尾中康宏氏（お寺めぐり画家）による「1,000秒であなただけの千手観音を描く屋台in岡山県立博物館」を会期中7回実施しました。暑い夏でしたが、7,443人の方に御来館いただきました。

（学芸員　岡﨑有紀）

展覧会広報チラシ

展示風景

特別展を終えて

醸す―自然と技術が育んだ岡山のお酒―

会期：令和5年10月20日（金）～12月3日（日）

あまり知られていませんが、岡山県は知る人ぞ知る酒造りの盛んな土地です。吉井川・旭川・高梁川の三大河川から流れる豊富な水、温暖な気候によって育まれるおいしいお米、専門的で高い技術を持った酒造りの集団備中杜氏の存在、これらが合わさり醸される岡山のお酒は万葉のころから高い評価を得てきました。本展覧会では岡山のお酒について、その歴史や文化を中心に御紹介しました。

第1章　史資料から見る岡山の酒はじめ

岡山とお酒のかかわりは深く、百間川原尾島遺跡で出土した「酒」の文字が書かれた須恵器を展示しました。江戸期になると県内各地で酒が造られ、矢掛町の石井家や和気町の大国家に残された史料から、当時の社会情勢と酒造りが密接にかかわっていたことが読み取れます。特にお米から造られるお酒は嗜好品であり、天候不順や天災などで米が不作のときには、しばしば幕府などの命令によって酒造りが制限されました。

第2章　道具から見る岡山の酒造り

お酒が造られるまでには数多くの工程と大変な作業が必要です。そしてそこには当然、数多くの道具が必要です。第2章では六尺樽やホーロー樽など岡山県内に残された古い酒造りの道具を展示しました。道具には職人たちの工夫が施され、洗練した道具の美しさがみられました。

第3章　米と水と備中杜氏

酒造りに大事な三つの要素である米と水と杜氏、第3章では岡山を代表する酒造好適米「雄町」の実物や備中杜氏に関連する資料を展示しました。特に備中地方に存在した備中杜氏たちの履歴書や自醸清酒品評会のトロフィー、おそらく全国で初、そして唯一であろう醸造学校関連資料や岡山のお酒の歴史と深いかかわりのあるおけ売りに関する資料などを展示しました。

第4章　暮らしから見る岡山のお酒

第4章では酒造りだけでなく、室戸台風で被災した当時の人々の酒器やお酒のポスター、マッチなど岡山のお酒にゆかりのある資料を展示しました。

第5章　岡山ゆかりの酒器

最後は酒器の名品の展示、特に北大路魯山人の志野さけのみと金重陶陽の備前三角徳利は見学者の目を引きました。

関連行事

関連行事は2つの記念講演会と映像上演会・トークイベントを行いました。神崎宣武氏（民俗学者）の「酒の日本文化」では日本酒の歴史を紐解き、お酒が私たちの文化に深く根付いていることをお話しいただきました。市田真紀氏（岡山県酒造好適米協議会広報アドバイザー）の「杯の向こうに風土が見える～岡山の米・水・技で醸す地酒の魅力～」では雄町など岡山のお酒文化を具体的に紹介していただき、岡山のお酒の理解がより深まりました。映像上映会では岡山映像ライブラリーセンターの小松原貢氏に40年程前の映像などを中心に昔の岡山のお酒造りについてお話しいただきました。

展覧会を終えて

本展では岡山におけるお酒の初めての本格的な展示として、古文書や酒造道具、備中杜氏資料などを多方面から集めて展示しました。初公開の資料なども多く、岡山のお酒について知っていただく良い機会になったのではないかと思います。会期中は4,468人の方に御来館いただきました。

（学芸員　木下　浩）

展覧会広報チラシ

展示室入口

展示解説

テーマ展を終えて

令和5年4月1日に再開館をした後、7つのテーマ展を行いました。それぞれのテーマ名および期間は以下の表のとおりです。担当の学芸員が工夫をこらして、展示を計画・実施しました。また、積極的にSNSでの発信にも努めることができました。すべてのテーマ展を紹介する紙幅がないので、4つのテーマ展の内容を、簡単に紹介したいと思います。

「名刀　福岡一文字の光彩」では、瀬戸内市長船刀剣博物館、林原美術館、吉備津彦神社から刀剣をお借りして展示しました。「涼をよぶ岡山の伝統工芸」では、岡山市北区撫川周辺で制作されている撫川団扇と、倉敷市茶屋町でかつて制作されていた「錦莞莚（きんかんえん）」を主に展示しました。「正宗敦夫と正宗文庫」は、（一財）正宗文庫、国文学研究資料館、就実大学人文科学部と協力を行い、正宗敦夫氏が収集した正宗文庫の資料を展示しました。展示にあたっては、リーフレットを特別に作成して、展示解説等の行事に参加した方々へ配布しております。

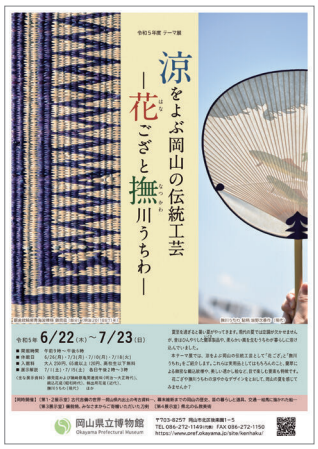
また、年末年始にかけては「八幡大塚古墳と児島屯倉」を行い、これまで円墳と考えられていた八幡大塚が全長64mの前方後円墳であることを指摘しました。また、同古墳より発掘された資料を展示し、最新研究の情報を提供することができました。

来年度以降についても、学芸員の日頃の調査研究の成果を盛り込んだ、魅力あるテーマ展が行えるように引き続き取り組んでいきます。

（副館長　内池英樹）

令和５年度のテーマ展一覧

名　　称	会　期	担当
名刀　福岡一文字の光彩	4/1～5/7	西垣
美作勝山城の実態に迫る	5/11～6/18	平田
涼をよぶ岡山の伝統工芸 ―花ござと撫川うちわ―	6/22～7/23	松井
正宗敦夫と正宗文庫	9/9～10/15	平田
八幡大塚古墳と児島屯倉	12/8～1/14	宇垣
岡山藩主祈りの寺 常住寺の寺宝	1/18～2/25	岡崎
岡山の戦国時代 ―赤松氏から宇喜多氏まで―	2/29～4/7	内池

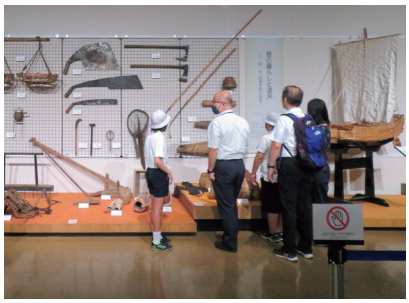


展覧会広報チラシ

教育普及事業

■館内授業・出前授業

博物館に来館し体験したり展示見学をしたりする「館内授業」と、学芸員が実物資料を持って学校に行き授業を行う「出前授業」は、今年度合わせて44校にご利用いただきました。「館内授業」では、展覧会の内容に合わせた見学や昔の生活の展示を中心とした見学などがあり、自由見学時間や質問時間を取ったりするなど、学校のニーズに合わせた多様な取り組みができました。「出前授業」では、主に小学校3年生を対象とした昔の生活の授業の一環として、学芸員が民俗資料を見せながら授業を行いました。


館内授業

小学校での出前授業

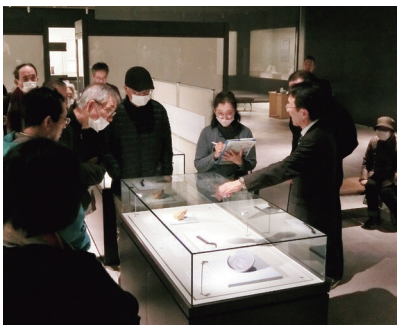
高校での出前授業

■学芸員による展示解説

特別展やテーマ展にあわせて、学芸員が展示内容の解説を行いました。展示資料の見どころや歴史的背景などを分かりやすく説明しました。オンライン展示解説会や、学芸員と専門家との対談形式での解説などもあり、多くのお客様に楽しんでいただきました。

特別展「慈悲のほとけ」展示解説

テーマ展「美作勝山城の実態に迫る」展示解説


テーマ展「八幡大塚古墳と児島屯倉」展示解説

■中学生職場体験

7校17名の中学生が参加し、文化財の取り扱いをはじめ、受付・看視、さらには広報活動など、博物館のさまざまな仕事を体験しました。体験を通じて、生徒たちは博物館の仕事や文化財を守ることの大切さを知り、興味を深めたようです。

巻子の取り扱い

調書作成体験

資料梱包体験

■博物館実習

学芸員資格取得をめざす県内外の大学生10人が、当館での実習に参加しました。8月の上旬に5日間の日程で、文化財の取り扱い実技のほか、作品の写真撮影や広報チラシの作成などを行いました。また、博物館行事の支援にも取り組みました。

実習で撮影した写真

■博物館講座

第一線で活躍する研究者と、当館学芸課職員による全4回の連続講座を6月に開催し、55人が受講しました。

①安嶋紀昭（広島大学大学院文学研究科教授）
「仏教絵画の視座―涅槃図の諸相―」
②内池英樹（副館長）
「軍記物の世界―備前軍記と備中兵乱記―」
③平田良行（学芸員）「江戸幕府の代官とその支配」
④木下浩（学芸員）
「150年前の感染症対策
―岡山に残された種痘の資料から―」

安嶋先生の講座

■ジュニア学芸員講座

「ジュニア学芸員講座」は、中学生・高校生が「ジュニア学芸員」として、博物館の活動を実体験するものです。再開館後初めての実施でしたが、定員を大幅に超える応募があり、19名が参加しました。8月8日（火）から10日（木）の3日間で、日本刀、陶磁器や考古資料など様々な文化財の取り扱いを実際に体験するとともに、チラシの作成や岡山城天守閣の見学などを行いました。

参加した生徒たちはどのプログラムにも積極的に取り組み、体験を通じて学芸員へのあこがれを一層強くした生徒もいました。

撮影体験

刀剣の取り扱い

民俗資料の取り扱い

博物館NEWS

寄贈資料の紹介

今年度も、当館に貴重な文化財を御寄贈いただきました。
一部ですが御紹介します。
御寄贈者の趣旨に沿い、広く皆様に還元できるよう、保存と活用につとめて参ります。

刀剣類

- 剣　銘 祐定（岡山県指定重要文化財）

歴史資料

- 常山紀談、備陽国志、絵図（田淵弥三郎作図）、鏡石神社資料

美術資料

- 懸守及び収納護符、浄土双六二曲一隻

民俗資料

- 撫川うちわ、撮影機材・電子機器類、第六高等学校資料

（副館長　内池英樹）

剣　銘 祐定（岡山県指定重要文化財）

INFORMATION

令和6年度の展覧会予定

特別展「緒方洪庵―その生涯と郷土岡山―」

会期　2024年10月18日（金）～11月24日（日）

特別展「茶碗―茶の湯にふれる―」

会期　2025年1月31日（金）～3月16日（日）

緒方洪庵肖像（部分）
大阪大学適塾記念センター蔵
画像提供：大阪大学適塾記念センター

国宝　志野茶碗　銘　卯花墻
三井記念美術館蔵
撮影：宮野正喜氏

岡山県立博物館だより　第85号
発行日／令和6年3月1日
発行者／岡山県立博物館　館長 細川　誠

〒703-8257 岡山市北区後楽園1-5
TEL：086-272-1149　FAX：086-272-1150
https://www.pref.okayama.jp/site/kenhaku/